



編集後記



世界観を基本とする奉仕事業としてのロータリー活動は日本には根付きにくい。たとえば「生活のための識字率の向上支援」や「水汚染による乳幼児の死亡率の抑制」の問題など先進国にはピンとこない。ロータリークラブのような奉仕団体は多数あるがここまで諸外国に目を向けた団体は少ない。大きなクラブでは発展途上国への学校設立など海外援助は当然行っているが、さらに、追加として国内、地元への援助となると負担が大きくなりなかなか難しい。当クラブもマッチンググランドで水道支援を考えたことがあったがやはり、地元の援助を優先させた。

創立 30 年後からの 10 年間の出来事の軌跡をこの雑誌にまとめた。当然全てを掲載することは不可能であり紙媒体のものはスキャンしてデジタル化、デジタル化されているものはそのまま編集作業を行った。「記憶より」、「記録」「文章より」「写真」である。単発より継続している行事を優先した結果、最初の数年より後半で勢いが出てきたのはデジタル化のおかげである。

本誌の P14 に当クラブの特徴を列記したが継続することが大切である。他クラブとの比較や R I からの最新情報を吸収しながら「赤いコンテンツ」を増やしていきたい。

40 周年記念誌 編集委員 室木俊美、向 卓、
南 早樹（こみみ情報局）